

令和8年度香川大学入学式 学長告辞（2026.4.7）

香川大学に入学された皆さん、ご入学誠にありがとうございます。本日、香川県の新しいシンボル「あなぶきアリーナ香川」で、香川県知事 池田 豊人様、高松市副市長 蓮井 博美 様、三木町長 伊藤 良春 様、香川県教育長 淀谷 圭三郎 様、香川大学校友会 副会長 星川 広史 様をお迎えして、令和8年度香川大学入学式を挙行できますことは、私たちにとりましてもこの上ない喜びです。

本日入学された学部1,328名、大学院345名、計1,673名の皆さんを心から歓迎いたします。今日まで支えて来られたご家族や関係者の皆様にもお慶び申し上げます。また、ご参集くださいました地元企業の皆様、同窓生を始めとする本学関係者の皆様にも感謝申し上げます。

香川大学は、瀬戸内海に面し、四国の玄関口として発展してきた香川県における唯一の国立大学として1949年に創立し、今年77周年を迎えます。教育学部・法学部・経済学部・医学部・創造工学部・農学部の6つの学部と、創発科学研究科・医学系研究科・農学研究科の3つの大学院、そして教育学研究科と地域マネジメント研究科の2つの専門職大学院から構成されています。「地域に根ざした学生中心の大学」として日々、教育・研究に励み、地域の社会や経済を維持発展させる人材を育成するとともに、地域の活性化に積極的

に取組んでいます。

皆さんはこれから、所属する学部・研究科において、大学ならではの高度な専門知識や技術をしっかりと学び、学修の成果を将来の活躍につなげて下さい。しかし、それだけでは充分ではありません。私たちが生きるこの社会は、人口減少や気候変動などにより急速に変化しつつあります。国際情勢も激変しており、はるか彼方の出来事が私たちの日々の暮らしに影響を及ぼしています。また、人工知能（AI）を始めとするDX（デジタル・トランスフォーメーション）の発達は凄まじく、今後、頭脳労働の大半はヒトから「生成AI」へ取って代わられるのではないかとされています。このように、先の見通しが不透明で、高度化・複雑化した社会を生き抜くためには、広く専門外の分野にも目を向け、多面的・総合的に思慮して「物事の本質を見極める力」を身に付ける必要があります。巷にはSNS等を通じてさまざまな情報が溢れていますが、情報の真偽を見分けることはもちろん、その背後にある意図を見抜くことが大切です。そして、既成概念に捉われずに柔軟に発想することで、新たな課題を発見し、その解決法を考え、そして解決に向かって実際に行動する能力を磨いてください。

そのために、香川大学では、デザイン思考（D）、リスクマネジメント（R）、インフォマティクス（I）の頭文字を取って名付けた「DRI教育」や、学部の枠を超えて主体的に学修する「ネクストプログラム」を始めとして、多くの

授業科目を用意しています。また、式典終了後に予定している「新入生歓迎セレモニー」でもご紹介しますが、さまざまなサークル活動や学生プロジェクトが皆さんの参加を待っています。これらの活動は、皆さんを地域社会と結び付け、友人や先輩後輩との出会いの場となることでしょう。今日という日に、自分の人生にとって大学に入学したことの意味を考え、チャレンジングな目標を立ててください。私たちは、皆さんの学びと成長を精一杯後押しします。

大学は学びの場であるとともに、研究を行うところです。香川大学でも、基礎から応用まで、さまざまなテーマで日々研究に取り組んでいます。香川大学発の研究成果といえば、一番に出てくるのが「希少糖」の開発と実用化です。希少糖とは自然界に僅かな量しか存在しない単糖のことであり、本学農学部の何森（いずもり）教授が、当時、誰もが見向きもしなかった希少糖に光を当て、製造方法や特性、さらには健康に役立つ作用について研究を進めました。希少糖のひとつである D-アルロースは、甘味があるにもかかわらずカロリーがゼロで、血糖値の上昇抑制や脂肪の燃焼促進といった健康増進作用を示すため、食の未来に新たな可能性をもたらすものと期待されており、既に国内外で販売されています。希少糖の用途は、食品分野だけでなく、医療・農業・工業分野等に広がる可能性を秘めており、香川大学は引き続き希少糖研究で世界をリードして参ります。

もうひとつの重要な研究テーマは、瀬戸内海に関してです。瀬戸内海は日本

で初めて国立公園に指定された地域であり、今も昔も風光明媚な眺めは私たちを魅了しますが、その一方で、海洋環境の悪化や、離島の過疎化・高齢化による社会問題などを抱え、わが国が直面する「地方の未来の縮図」とも言われています。私たちは瀬戸内海で、海草・藻場・干潟の生物群集の生態調査や、二酸化炭素の吸収や稚魚の生育につながる藻場の造成機能をもつ人工漁礁の設置、さらには、生態系をトータルで評価する研究を進めています。また、東京芸術大学と連携して、海や島や沿岸部を舞台にして「アートと科学技術の融合」により、イノベーションの創出と地域社会の課題解決を目指すユニークなプロジェクトを展開しています。

大学の研究は、教員の指導の下、大学院生など、学生が中心になって行います。わが国では今後、文系・理系を問わず、大学院で研究を通して専門分野の知識やスキルを深めることがますます重要になると考えられています。本日の式典には、大学院の入学生も出席されています。学部学生の皆さんには、卒業後、大学院への進学の道が開かれていることを、どうか知っておいてください。

皆さんの中には、入学を機に初めて香川県に住む方も多くおられると思います。香川県は讃岐うどん発祥の地として、そして瀬戸内国際芸術祭を開催するなど、現代アートの聖地として知られていますが、気候も風土も住民も皆、穏やかで、他所から来た人にとっても住みやすいところだと言われています。大学においても、学生生活上の困りごとに対して親身になって相談に応じる

体制を整えていますので、何かありましたら一人で悩まず、気軽に大学の相談窓口に来てください。皆さんが香川大学に入学して良かったと心から思っただけのよう、そして、皆さんにとって香川が第2の故郷となるよう、教職員一同、努力して参ります。

最後に、新入生の皆さんが健やかに過ごされ、充実した大学生活を満喫されますことを心より祈念して、告辞とします。本日は誠におめでとうございます。

令和8年4月7日

国立大学法人 香川大学長
うえだ なつお
上田 夏生